

基本評価シート

様式

北海道 留萌・小平町大榎花岡区域

(北海道留萌振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和6年度小平地域効果的捕獲促進事業（エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業）委託業務		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	留萌振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	直島 夕花	担当者連絡先	0164-42-8436
捕獲実施事業者	株式会社構研エンジニアリング （認定を受けている・受けていない）	予算額（※2）	195,038,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	108,148,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
40頭	8頭	20%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
73万頭※ （個体数指数：東部148、北部127、中部112、南部388）	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
35,232頭（R5）	61,491頭（R5）	58,803頭（R5）

※令和5年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3~22万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。
--

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>小平町では、許可捕獲による有害鳥獣駆除を毎年実施し、エゾシカの被害低減に取り組んでいるものの、捕獲従事者の不足やエゾシカの主な滞留地点が捕獲の困難な国道沿いの斜面にあるなどの事情から、エゾシカ生息数の減少には至っていないと推察される。そのため、小平町におけるエゾシカの農業被害額は減少傾向になく、エゾシカが関係する交通事故は平成30年以降、毎年10件以上発生している。</p> <p>留萌管内においては、主に銃器による捕獲が実施されてきたが、近い将来、捕獲従事者の不足が懸念されている。そのため、新たな従事者を確保し、エゾシカの捕獲を推進することを目的として、多雪強風地域でも活用できる「わな」による捕獲手法の開発を、小平町において令和4年度及び令和5年度に実施した。</p> <p>しかし、エゾシカは周りの環境に合わせて滞留する箇所を変えるため、「わな」で捕獲をする場合は、エゾシカの移動に合わせて「わな」も移動させる必要があったが、エゾシカの移動先が「道路敷地となっている国道沿いの斜面」や「人力で到達することが容易でない奥まった林内」など、捕獲が現実的ではない箇所であった。国道沿いの斜面については、相当数のエゾシカが越冬地として利用しているが、道路敷地であるため発砲することもできず、「わな」も設置できないため、有効な捕獲対策を講ずることができないのが現状である。</p> <p>そこで、誘導柵及び誘引餌を用いてエゾシカの行動をコントロールし、捕獲のしやすい箇所にエゾシカの高密度地帯を人為的につくる、「捕獲適地の創出方法」についての技術開発を行うこととした。本事業で検証、実証した技術を関係機関に共有し、これまで捕獲できない箇所で滞留していたエゾシカを捕獲することでの捕獲数の増加と、捕獲手法及び管理手法の選択肢を増やすことでの捕獲従事者の増加を図り、当該地域におけるエゾシカによる農業被害の低減と、エゾシカが起因となる交通事故の低減を目標とする。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	令和6年10月24日～令和7年3月21日(※委託期間)
実施区域	<p>小平町大楯・花岡区域</p> <p>小平町のほぼ中心部に位置しており、日本海に面した西側は、海成段丘を形成する。海から強い風が吹き込む日が多く、海に面した斜面は雪が飛ばされ、積雪が少なくなっている。斜面上の周囲はマツ類やミズナラ、カシワを中心とした森林が広がっており、樹木が防風林の役割を果たし、林内は風雪が穏やかである。</p> <p>積雪期のエゾシカは風雪をしのげる森林内に滞留し、周辺の森林や日本海に面した国道沿いの斜面で、強風により積雪が飛ばされ露出したササ及び若草を採餌し、越冬している。斜面では一日に300頭以上のシカが目撃され、林内においては主にトドマツと倒れたミズナラ等の樹皮剥ぎが多く発生している。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入 ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人北海道猟友会留萌支部小平部会：調整会議に参加し、現地のエゾシカの動きについての情報提供や、捕獲手法についての助言。 ・地方独立行政法人北海道立総合研究機構：調整会議に参加し、効果的な捕獲手法についての助言。捕獲実施箇所において現地踏査への同行。 ・北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課エゾシカ対策係：同上 ・小平町経済課農林係：調整会議での意見交換等。

事業の捕獲目標	(20%達成) = (実績値 8 頭) / (目標値 40 頭)
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他 ()
捕獲個体の確認方法	<p>【わな猟】</p> <input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他 () ※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可
捕獲個体の処分	<input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など） <input checked="" type="checkbox"/> 写真（証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、また GPS 機能付きのカメラ（スマートフォンを含む）で撮影し、データも併せて添付する。） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 捕獲現場にて立会 ） ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：見回りの実施及び IoT カメラによるリアルタイムでの監視） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制図、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。 受託者の内部にあつては、上記で定めた安全管理体制に基づき、従事者全員がそれぞれの役割を把握できるよう安全管理体制を構築させた。 捕獲事業の実施にあつては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整会議を開催した。 立て看板によりわな設置箇所への立入規制を行った。わな設置箇所への道の入り口に事業者名、捕獲対象鳥獣、実施期間、協力要請を記載した看板を設置することにより、地域住民に周知した。 また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は冬期間に実施されることから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> 捕獲従事者数：9 人 （内訳） 正規雇用者： 7 人、期間雇用者： 2 人 日当制： 人

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：ヒグマの出没により捕獲作業を事業途中で中止したため、捕獲目標頭数 40 頭のところ、実績は 8 頭と目標頭数には及ばなかったが、わなの稼働総数が 55 基日に対し、捕獲実績 8 頭となったことから、CPUE は 0.091 と高い数値となった。</p> <p>改善点：ヒグマの出没を想定し、ヒグマを捕獲できる体制を構築しておく必要があった。もしくは、ヒグマが出没した段階で、わな以外の猟法でも事業を進められるよう検討が必要であった。</p>
【実施期間】	<p>評価：11月～12月は馴化の期間とし、エゾシカにとっての餌資源が枯渇し餌による誘引及び滞留効果が高まる12月下旬～3月上旬までを捕獲の期間とした。当該地域にはヒグマも生息しており、報告されているヒグマの活動期間と被らないように捕獲実施の期間を設定したが、例年ヒグマの目撃がなかった1月に当該地域にてヒグマが確認された。</p> <p>冬眠しないヒグマの出没範囲や出没時期は事前の特定が困難であるため、通常ヒグマの出没しない時期であって、なおかつエゾシカの捕獲効率が高まる12月下旬～3月上旬までの捕獲実施期間の設定は妥当である。</p> <p>改善点：今年度の出没を考慮して次年度事業の捕獲開始を2月まで遅らせた場合、捕獲や検証の期間を十分確保できなくなるため、積雪期であっても、ヒグマの出没を想定した体制構築が必要となる。</p>
【実施区域】	<p>評価：当該区域は本来、捕獲に係る規制等は特にないが、近隣で実施されている国道工事のため銃猟規制が敷かれており、捕獲圧から逃れるために近隣から多くのエゾシカが集まっている。区域内は広くトドマツの植林地であるため、エゾシカの越冬地として適しており、国道沿いの斜面に出てきて、ササ及び若草を採餌している。しかし、エゾシカの出でくる斜面は道路敷地であり、捕獲が行えないため、地元猟友会による捕獲が実施できていないのが現状である。</p> <p>地元猟友会はわなを用いてのエゾシカの捕獲は実施しておらず、当該区域では捕獲ができないため、道が主体となる必要があり、かつ近隣からも多くのエゾシカが集まる越冬地であるため、捕獲の実施区域として適当である。</p> <p>改善点：付近で国道の防災工事を実施しているため、捕獲手法として銃猟を採用した場合は、多くの機関との調整を要する。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：捕獲効率を高めるため、誘導柵及び誘引餌を用いてエゾシカの移動をコントロールし、誘導柵内にエゾシカの高密度地帯を創出し、柵内のエゾシカをくくりわなを用いて捕獲した。</p> <p>捕獲頭数は少ないが、捕獲効率は全道平均よりも高い0.091となったため、効率的な捕獲を実施できたと言える。</p> <p>また、本手法は本来捕獲できない場所で滞留するエゾシカを捕獲しやすい場所に誘導して捕獲するものであり、今まで捕獲できていなかったエゾシカを捕獲できる</p>

	<p>よくなることでの捕獲数増加を望めるため、本事業で確立した技術を普及することで、全道的な捕獲数の増加に寄与すると考えられる。</p> <p>改善点：ヒグマの出没により捕獲作業が中止となったため、捕獲効果の検証期間が短くなってしまった。そのため、当該地域においては、わな以外の猟法による捕獲の検討、若しくは出没したヒグマを捕獲できる体制構築が必要となる。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：捕獲及び検証の作業日を週3日としたことから、昨年度より受託者の負担を減らすことができた。また、地元猟友会や道総研などの有識者からも助言を受け、それを事業に反映することで、事業中に検証内容等のブラッシュアップを図ることができた。</p> <p>改善点：受託者が札幌の業者であったため、作業の度に留萌に宿を取るなど負担が強いこととなった。地元猟友会とのコンソーシアムも検討されたが、地元猟友会は「わな」によるエゾシカの捕獲を行っておらず、調整が付かなかった。</p> <p>管外の業者が受託することも考慮し、地元猟友会が参加できるよう銃猟での事業実施も検討する必要がある。</p>
【個体処分】	<p>評価：捕獲頭数8頭に対して、内1頭がペットフードとして有効利用された。残りは廃棄処分となった。</p> <p>改善点：加工処理施設の定休日に捕獲された個体が廃棄処分となっていたため、複数の加工処理施設への持ち込みを検討する必要がある。</p>
【環境配慮】	<p>評価：くくりわなのアンカーとして利用していた立木に対しては、くくりわなが接する箇所にゴムチューブを巻くなど、保護対策を講じた。また、同様に誘導柵についても、立木に傷がつかない素材で固定した。</p> <p>改善点：当該区域では、同様の配慮を継続する必要がある。</p>
【安全管理】	<p>評価：緊急連絡体制及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制を構築するとともに、看板等により周辺住民等に対する周知を行った。</p> <p>捕獲の実施期間は地元猟友会が確認しているヒグマの活動時期とはずらして設定したが、1月以降にも活動するヒグマが出没し捕獲事業は中止となった。</p> <p>誘引餌については、過去にヒグマが食べたと報告のあがっていないルーサンヘイを使うこととし、ヒグマの誘引を防止した。そのため、ヒグマ出没時にヒグマが誘引餌を食べた痕跡は確認できなかった。</p> <p>ヒグマ出没後に現地調査を実施し、ヒグマの有害性を把握したことで、捕獲の中止及び一部検証の継続について迅速に判断することができた。</p> <p>改善点：ヒグマを駆除できる体制を構築しておく、若しくは、ヒグマの出没時点で捕獲手法を銃猟に切り替えるなど、過年度以上にヒグマの出没を想定した体制を構築しておくべきだった。</p>
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
○各検証事項について	
<p>誘導柵について：効果的に誘導できる誘導柵の設計及び設置について検証を行った。事業開始前の林内踏査や昨年度事業実施時に確認できたシカ道に沿いつつ、海岸沿いの斜面へのシカ道を遮断す</p>	

るような形状とした。また、柵内を完全には囲わずエゾシカが自由に柵内外を行き来できるようにし、エゾシカの警戒心を高めにくい構造とした。検証の結果、柵内において誘導柵沿いを歩く複数の足跡が確認できたことから、誘導柵には一定の誘導効果があったと考えられる。

しかし、柵の資材として使用した防獣ネットが脆弱であったため、強風及び積雪による損壊が多発し、損壊した箇所からもエゾシカが出入りできてしまったことで、柵の滞留効果が薄れてしまった。特に、シカ道を遮断する形で誘導柵が設置された箇所では、エゾシカが強引にネットを突き破って柵内若しくは柵外へ移動しているケースが多く確認された。そのため、これらの破損部分の補修にあたって、大きな労力を費やすこととなった。

改善策としては、より強固な資材により柵を作成し、柵の損壊を防ぐことにより不必要なエゾシカの出入りを減らすことで、さらなる誘導及び滞留効果が期待できる。柵の効果向上と設置費用や設置労力はトレードオフの関係となるため、確保できる予算や期間の中で、柵の強度や規模がどの程度必要になるか、今年度事業の結果を踏まえて検討する必要がある。

誘引餌について：昨年度事業で得られた知見を活かし、誘導柵内にエゾシカを滞留させるための効果的な餌の設置方法についての検証を行った。餌の雪埋もれ防止及び食べにくくすることでの滞留時間の向上が期待できる、玉ねぎネットに餌を入れ木に吊す手法を活用した。

誘導柵内に玉ねぎネットを設置したところ、エゾシカによる採餌が多く確認されたが、餌ごとネットが食い破られることで、餌が全て地面に落ちてしまい、滞留時間の向上については効果がなくなっていた。そのため、エゾシカに食い破られにくい金属製ワイヤー入りの防獣ネットに餌を入れ木に吊したところ、食い破られることがなくなったため、滞留効果が向上した。

地面に直接 150kg の餌を置いた場合と、防獣ネットに 15kg の餌を入れて木に吊した場合、どちらも約 2 日で餌を食べ尽くしていたため、防獣ネットによる給餌方法は、従来の給餌方法と比較しても少ない餌の量で、エゾシカを滞留させることが可能であると考えられる。

しかし、本検証においては、捕獲作業中止後に新たに開始した検証であり、検証期間が短く、十分なデータを得ることができなかったため、次年度事業においても検証を継続し、捕獲期間を通してのデータを収集する必要がある。

また、木に吊された餌を採餌するエゾシカを観察していると、高い位置で採餌できない仔が親の足下でおこぼれを食べている様子や、後ろ足二足で直立して採餌する個体が確認されたため、木に吊す高さによってもエゾシカの行動や意識に変化が見られることがわかった。次年度以降の事業においては、木に吊す高さという観点でも検証を行うことで、滞留効果のさらなる向上が期待できる。

4. 全体評価

誘導柵及び誘引餌を用いた捕獲適地の創出方法及び捕獲適地におけるくくりわなの効果的な捕獲方法についての検証については、当該区域へのヒグマの出没により捕獲が中止となったことで十分な検証結果を得られなかったが、誘導柵に沿って歩くエゾシカや柵が破損する原因等については確認することができた。また、捕獲作業中止後についても、餌による誘引及び滞留についての検証は継続して実施することができたため、次年度以降に活用できる知見は十分得られたと考えられる。

エゾシカが柵に沿って歩く様子を確認できたことから、誘導柵にはエゾシカに対し一定の誘導効果があると考えられ、より少ない餌量で滞留効果を発揮した防獣ネットによる給餌を柵内で実施することにより、捕獲適地は創出できるものと考えられる。

しかし、柵の強度や構造、ヒグマ出没時の体制構築など課題も多く残る結果となったため、捕獲適地の創出方法の検証については、今後も継続して実施する必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

留萌管内には、海岸沿いを中心に比較的規模の大きな越冬地が多く分布し、捕獲の行えない海岸沿いの斜面に多くのエゾシカが出没しており、捕獲不適地である斜面から林内の捕獲適地へとエゾシカを誘導し捕獲する技術を確立することで、今まで捕獲のできなかった場所で滞留するエゾシカを捕獲できるようになるため、当該地域だけでなく、他地域における個体数管理の充実にも大いに寄与するものとする。

また、上記のとおり斜面のエゾシカは捕獲できない場所で滞留しており、市町村による有害捕獲も実施できていないため、斜面に出てくるエゾシカを捕獲するという本事業の試みは、当該地域におけるエゾシカ被害の低減に繋がっているため、今後も事業を継続していくことが望ましい。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

項目	作成できる概況図（地図）※についてチェック
----	-----------------------

捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア）捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和6年度 （事業年度の値）	令和5年度 （前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 55 人日（下記人日の合計 36 人日に捕獲作業中止後作業人日数 19 人日を合計）

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 21 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 15 人日

項目	令和6年度 （事業年度の値）	令和5年度 （前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	_____ 88 基日	_____ 948 基日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ）捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和6年度 （事業年度の値）	令和5年度 （前年度の値）	増減の傾向
①捕獲数	_____ 頭	_____ 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	8頭	34頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0.75	0.65	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.375	0.5	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 ^{※1}	CPUE ^{※2}
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	8頭	88基日	0.091頭/基日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日

			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： _____ 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： _____ 1 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成している。捕獲した個体の処理については、処分場の処理票または有効活用事業者の受取証の確認を行っている。

○メッシュ番号：ヌ-053

